

指標名: レベル3a以上の転倒転落発生率

背景

当病棟は大腿骨骨折や、人工関節置換術、上肢骨折等で入院する患者が多い。手術適応の患者が多く、受傷後から手術後までの床上安静指示により筋力の低下をきたしやすい。また、患部の疼痛や体動時の疼痛増強による関節可動域の制限などから体動困難な状態となり、転倒のリスクが高くなる。転倒による再骨折や打撲は治療期間の延長・リハビリの遅れに繋がる。入院患者の多くは65歳以上の高齢者であり、骨粗鬆症の既往がある場合も少なくない。転倒による再骨折を予防するように努めている。

データの定義

(分子)レベル3a以上の転倒転落発生数

(分母)整形領域入院患者数(骨関節外科・骨軟部腫瘍外科・手外科、上肢外傷外科)

2018年度のデータ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
レベル3a以上の転倒転落発生率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.75	0	0
分母:整形領域入院患者数(骨関節外科・骨軟部腫瘍外科・手外科、上肢外傷外科)	52	61	69	61	69	57	64	60	59	57	45	114
分子:レベル3a以上の転倒転落発生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

参考データ

2017年度1.88%

評価

・2018年度目標値1.5%以下 ・2018年度(4月～3月:1件)発生率0.13%

転倒・転落予防グループを作り、要因を細かく分析することで、患者要因と考えていたことを環境要因や説明不足によるものと考え、環境整備やリハビリ強化などの介入できるようになった。そのような介入を続けたことが受傷と伴う転倒転落件数を減らすことにつながった。

参考文献

1) 日本転倒予防学会(2016).多職種で取り組む転倒予防チームはこう作る! ,新興医学出版社